

## 自助・共助の重要性について

ここ数年、熊本地震をはじめとする大地震地震が多く発生しているなか、テレビ等でもよく地震について取り上げられるようになりました。そんな中、いま、日本で最も危惧されている地震が、皆さんもよくご存知の「南海トラフ(巨)大地震」です。この地震は、この先30年以内に発生する可能性が70%であり、近い将来、必ず発生するといわれています。では、この地震での伊賀市内への影響がどれくらいあるかはご存知でしょうか。平成26年3月に三重県が発表した被害想定では、市内の最大震度は6強であり、建物の全壊棟数は1,900棟との想定が発表されています。また、伊賀市内には、頓宮断層、木津川断層という大きな活断層が存在し、そのうちのひとつである頓宮断層は旧伊賀町から友生地域にかけて南北に走る断層で、同想定によると市内の最大震度は震度6強であり、建物の全壊棟数は4,500棟にのぼると想定されています。そして、皆さんの住む上野東部地域に限定して見てみると、どちらの地震においても、最大震度は6弱から6強程度であり、全壊棟数は約200棟になります。皆さんの地域には一世帯平均で2.4人/世帯の方が住まれていますので、多くて500人程度の方が倒壊した下敷きになる可能性があります。市内の消防職員・団員は合わせて1,680人程度ですが単純に4人で1人の人を救助すると不足が生じます。大規模災害になれば被災するのは、市内全域になるため、当然、救助の手が届かないこともあります。この状況から生き延びるためには、自らもしくは地域の力により回避するしかありません。

皆さんは、「緊急地震速報」が鳴ったときどのような行動を取りますか。自分の身を守る行動をとる人、一方で確立が低いと言う理由で『また、鳴ってるわ』と感じ行動に結びつけない方もいるのではないのでしょうか。でも、いったい何のための知らせなのでしょう。緊急地震速報が鳴り、上に示した被害想定通りの揺れを観測した場合、前者の方は、建物が倒壊しても命を守れる可能性があるため、命を守り生きてさえいれば家族、地域の力による助けまたは救助隊の助けを受けることが出来るかもしれません。しかし、後者の場合は、命を守る行動すらとらないわけですから、倒壊したときに命を落とすと生きてままでの助けを受けられないかもしれません。共助や公助を受けるためには、まず、自らの『命を守ること』が重要であり、これこそが自助の第一歩につながります。また、家具は転倒する恐れがない状態にする必要がありますし、就寝場所の近くには水分等を備えておくのもいいかも知れません、また、過去の大規模災害からみても発災から3日目ぐらいまでは、避難所への食料等の物資は届かないことが予想されるため、地域の皆さん一人ひとりが出来る範囲での備蓄(少なくとも3日分)をしていただくことが必要になります。個人が備えれば、当然、地域内の備蓄量の増加にもつながります。そして、平時から地域内における催し、訓練等に積極的に参加し、顔の見える関係を構築することが重要になります。

平時から防災のことだけを考える必要はありませんが、防災に関する知識、備蓄、技術等を出来ることから少しずつ備えていくことが命を守ることになり、そんな方々が多く地域内で育成していくことが防災力の高い町づくりに繋がります。